

HOPEレポートXXIII 2007年団塊リタイア開始①「団塊世代 退職金の使い方」

**支給直後は、退職金の約5割を「貯蓄」へ。また約1.5割を「運用」に。
一方、定年後の生活全体で見れば、「消費」に回す比率が3割強へ上昇。**

退職金の投資運用内容は、男性は「株式取引」、女性は「定期預金」。

今後のお金の使い道トップ3は、「国内旅行」「海外旅行」「趣味」。

行きたい場所は、男女ともに国内は「北海道」と「沖縄」。海外は圧倒的に「ヨーロッパ」。

博報堂エルダービジネス推進室では、50歳以上のエルダー生活者について、常時さまざまな調査・研究を実施しております。このたび、2007年4月から始まった「団塊のリタイア」に焦点を合わせ、首都圏及び関西圏の58～60歳（428名）に緊急調査を行い、「リタイア後の退職金の使い方」について分析した結果をまとめましたので、ご報告いたします。

調査結果によると、退職金の使い道は、支給直後は、約5割の人が「貯蓄」し、「投資運用」「消費」「ローンの返済」は、それぞれ15～16%程度となり、最初から「運用」にも一定金額を回そうと考えていることがわかりました。さらに、定年後の生活全体で尋ねてみると、「貯蓄」は約4割まで減り、逆に「消費」の比率が約3割強まで上がります。また「投資」に回すお金が直後より微増し、「ローン返済」が減ります。この傾向は、退職金をもらった人と、これからもらう予定の人ではあまり差がありませんでしたが、男女を比べると、男性よりも女性のほうが「貯蓄」傾向にある結果となっていました。

退職金を投資運用したいと回答した人の運用内容では、男性は「株式取引（70.4%）」「投資信託（57.0%）」「定期預金（45.9%）」の順でしたが、女性は「定期預金（58.4%）」がトップで、「株式取引（50.6%）」「投資信託（48.3%）」となり、退職金の使い道は、女性のほうがやや安定志向に見えますが、女性も2位の「株取引」が50%以上となっており、団塊世代は全体的に株式取引に興味があることが明らかになりました。

今後のお金の使い道としては、「国内旅行（63.3%）」「趣味（63.1%）」「海外旅行（57.5%）」がトップ3でした。また「薄型テレビなどの家電（49.8%）」や「リフォーム（46.0%）」にも関心が高く、男性は「車（43.5%）」、女性は「エンタテインメント（40.7%）」も高い数値となっています。

男女共に関心の高い「国内旅行」と「海外旅行」ですが、具体的には国内は「北海道（79.7%）」と「沖縄（67.5%）」、海外は「ヨーロッパ（84.6%）」に圧倒的な人気のあることがわかりました。定年退職を迎え、お金と時間に余裕がでてきたからこそ、のんびりと国内のリゾート地、そして音楽や映画を通じて若い頃から憧れていたヨーロッパが、これから訪ねてみたい旅行先として選ばれるのでしょう。

次ページ以降で、詳細の調査データを紹介いたします。

調査概要

調査時期：2007年3月

調査地域：東京40km圏および大阪/京都/神戸

調査対象：団塊世代（58～60歳男女）計428名

調査方法：博報堂オリジナル・インターネット調査システム“Hi-panel”

添付資料：調査データ

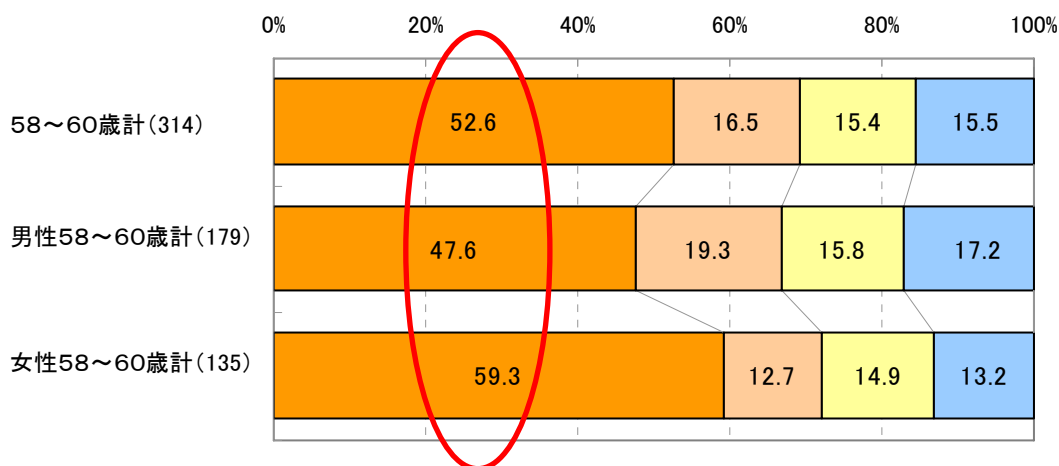
- ◇ 定年退職直後は、退職金の約5割を「貯蓄」に回すが、「投資運用」も16.5%と、初めから運用も念頭にあり。直後の「消費」はやや控えめだが、定年後の生活全体で見れば「消費」比率が3割強まで上昇。

退職金の使い道としては、支給直後では約5割を「貯蓄」しますが、「投資運用」も16.5%と、最初から運用に一定額を回そうとしていることがわかりました。さらに、定年退職後の生活全体で見たときは、貯蓄率は下がり、逆に15.4%しかなかった「消費」の比率が3割強まで伸びています。また支給直後は「投資運用（16.5%）」「ローンの返済（15.5%）」も低く抑えられていますが、これも今後の生活全体で見たときは、「投資」に回すお金が19.2%と微増し、「ローン返済」が7.7%まで減っています。ローンの返済を終え、定年後の生活にかかる費用の目処もつき、もう少しお金を消費へ回そうという団塊世代の意識の変化が読み取れます。

ちなみにこの数値は、退職金をもらった人と、これからもらう予定の人ではあまり差がありませんでした。一方、男女を比べると、男性よりも女性のほうが「貯蓄」傾向にありました。

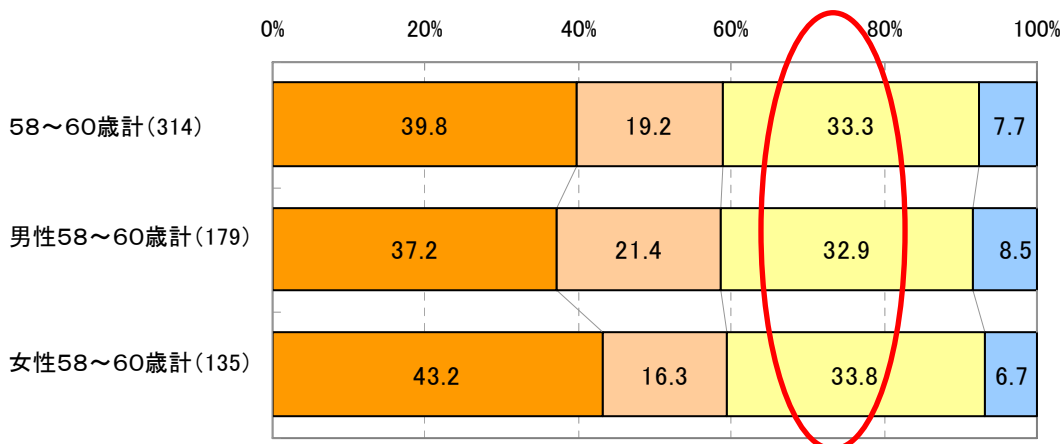
支給直後の退職金の使い方〔退職金あり者(N314)〕

■ 貯蓄 ■ 投資運用 ■ 消費 ■ ローンの返済



定年後生活全体での退職金の使い方〔退職金あり者(314)〕

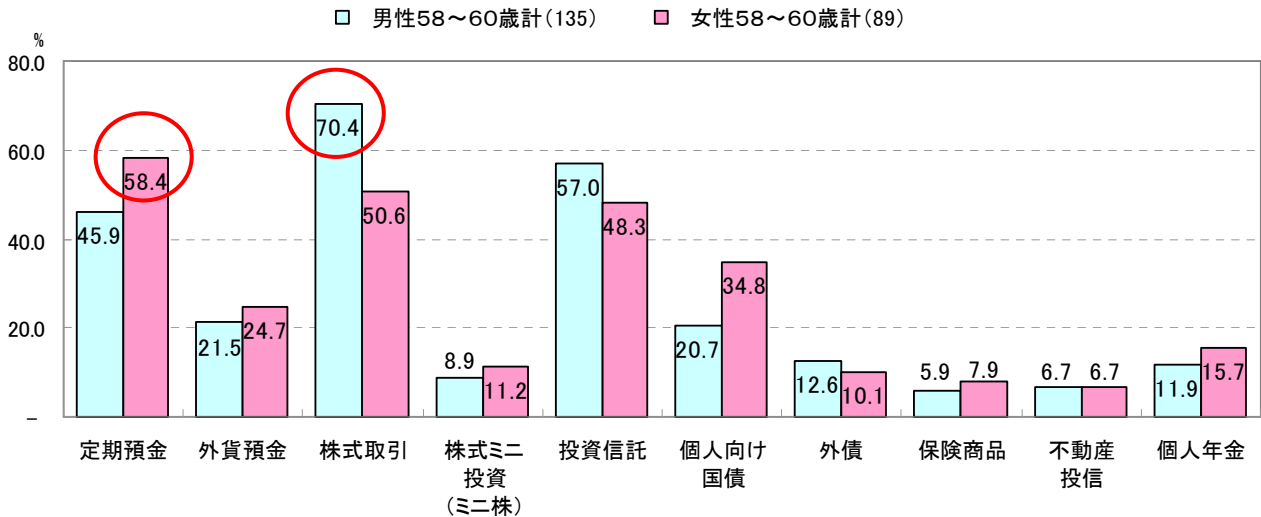
■ 貯蓄 ■ 投資運用 ■ 消費 ■ ローンの返済



◇ 退職金の投資運用内容は、男性は約7割が「株式取引」、女性は手堅く約6割が「定期預金」。これに「投資信託」を含めたものが、団塊世代の投資運用内容のトップ3。

退職金の投資運用内容には、男女差が見られました。男性は「株式取引（70.4%）」を筆頭に、「投資信託（57.0%）」「定期預金（45.9%）」となりますが、女性は「定期預金（58.4%）」がトップで、「株式取引（50.6%）」「投資信託（48.3%）」と続きます。とはいえ、女性も半数は株式取引に関心を持っており、団塊世代は全体的にお金の運用に興味のある世代と言えます。

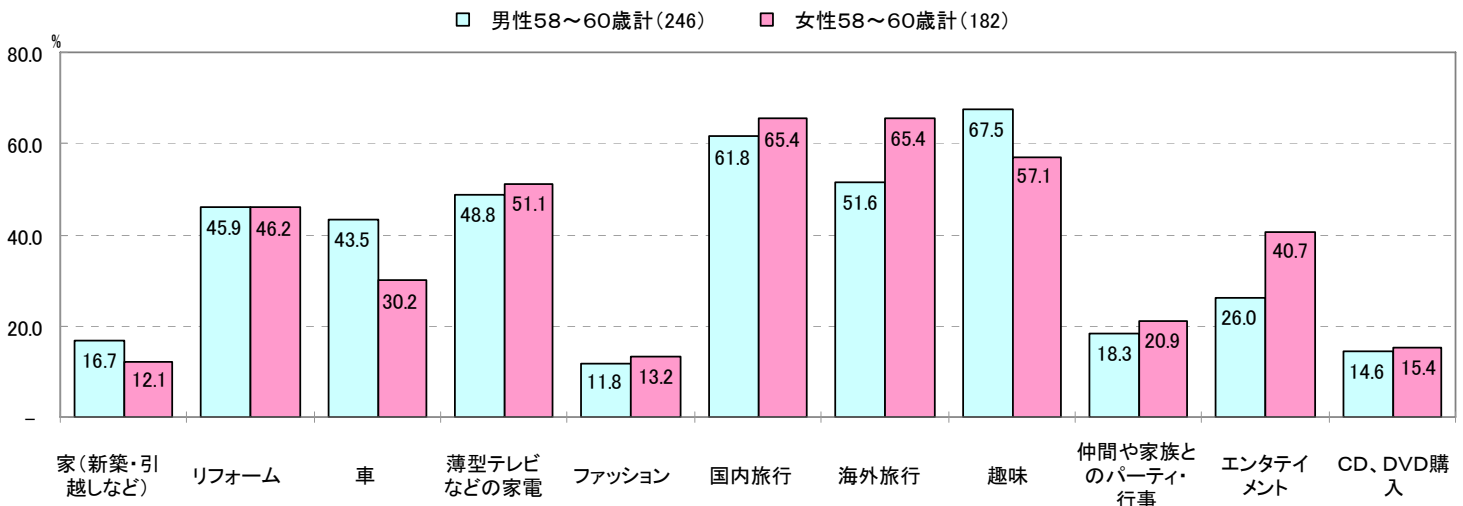
退職金お投資運用内容〔意向者(N224)〕



◇ 今後のお金の使い道としては、「国内旅行」「海外旅行」「趣味」がトップ3。

定年退職後のお金の使い道としては、男女共に「国内旅行」「趣味」「海外旅行」がトップ3でした。また「薄型テレビなどの家電」や「リフォーム」も男女ともに関心が高くなっています。男女差が見られた項目としては、男性が「車（43.5%）」、女性が「エンタテインメント（40.7%）」に興味をもっていることが挙げられます。家をリフォームして、薄型TVなどの家電を買い揃え、車も新しくして、お出かけという、新しいライフスタイルの始まりがうかがえます。

今後のお金の使い道



- ◇ 行きたい国内旅行先は1位「北海道 (79.7%)」2位「沖縄 (67.5%)」。海外旅行先は圧倒的に「ヨーロッパ (84.6%)」が人気。

男女共に関心の高い「国内旅行」と「海外旅行」ですが、地域別に見ると、国内は「北海道 (79.7%)」と「沖縄 (67.5%)」、海外は「ヨーロッパ (84.6%)」に人気のあることがわかりました。また、海外においては、近場のアジアよりも、距離のある欧米が上位に並んでいます。定年退職を迎え、お金と時間に多少余裕がでてきたからこそ、国内のリゾート地でのんびり寛いだり、若い頃に憧れていたビートルズやフランス映画の世界に浸るヨーロッパが真っ先に選ばれたのでしょう。

行きたい旅行先

<国内>		<海外>			
〔国内旅行意向者 (N271)〕		〔海外旅行意向者 (N246)〕			
1	北海道	79.7	1	ヨーロッパ	84.6
2	沖縄	67.5	2	オーストラリア	44.3
3	九州	50.9	3	ニュージーランド	43.5
4	京都	45.8	4	ハワイ	41.5
5	四国	35.4	5	アメリカ	41.1
6	金沢・能登	33.9	6	中国	28.9
7	長野	26.2	7	東南アジア	27.2
8	秋田	25.1	8	韓国	17.1
9	青森	24.4	9	台湾	16.7
10	中国	19.6	10	その他	10.6

<調査分析の視点> ～「団塊サードウェーブ」の可能性を探る～

博報堂エルダービジネス推進室では、団塊の世代が1960年代後半に若者文化を創ったときを「団塊のファーストウェーブ」と呼んでいます。このときに、初めて世の中に登場したのが、「男の長髪」「ミニスカート」「ジーンズ」です。また、1980年前後にニューファミリー・スニーカーモデルと呼ばれて消費をリードしたときを「団塊のセカンドウェーブ」としています。このときに、初めて世の中に登場したのが「ワゴン車」です。この2007年からはじまる団塊世代の大量退職で、「団塊のサードウェーブ」が起こる可能性があります。それは、これまで2回の波がいずれも「私生活」に関することによる社会現象であり、リタイアは基本的には「私生活中心」の生活に入るからです。(詳細は「団塊サードウェーブ」2006年弘文堂刊)

彼らは、これまでの2回の波の際、前述のような世の中にそれまでにはない新しい現象を起こし、次の時代の新しい文化・消費を生み出してきました。今回の団塊リタイアに際しても、次の時代の流れになるような「新しい社会現象」が起こる可能性があります。調査からは、これまでの一般的なリタイア後の高齢者イメージとは異なる意識やライフスタイルが見えてきました。そこから、新たな「社会現象」になるような兆候をできるだけ取上げてみました。こうした分析から「団塊サードウェーブ」が起こるきざしが多少見えてきました。本当にそれらが大きな流れになるかどうか、われわれも今後注目して行きたいと思います。

ご参考

■エルダーの規定（博報堂エルダービジネス推進室による）

50歳以上の高齢者を「エルダー」と規定	
導入期	50～64歳
本格期（高齢者）	65歳以上
前期高齢者	65～74歳
後期高齢者	75歳以上

■これまで発行したHOPEレポート

1. HOPE レポートⅠ ニューエルダーの登場 (2001年5月・既報)
・ニューエルダーの登場 エルダー世代関係づくりのキーワードは「情報縁」
2. HOPE レポートⅡ 情報縁：つながる場 (2001年7月・既報)
・ユニバーサルデザイン
3. HOPE レポートⅢ 情報縁：つながる関係 (2001年8月・既報)
・エルダーの人間関係
4. HOPE レポートⅣ 情報縁：3世代コミュニケーション (2001年9月・既報)
エルダーの「子供」「孫」とのコミュニケーション
5. HOPE レポートⅤ 「エルダー層のお金に対する意識調査」 (2001年11月・既報)
6. HOPE レポートⅥ つながるメディア「ラジオとエルダー」 (2001年11月・既報)
7. HOPE レポートⅦ 「エルダーと旅」 (2002年3月・既報)
8. HOPE レポートⅧ 「50代調査速報」 (2002年7月・既報)
9. HOPE レポートⅨ 「HOPE サーベイ速報：エルダーとパソコン・携帯電話」 (2002年10月・既報)
10. HOPE レポートⅩ 「50代60代1600名のお金に関する意識データ」 (2003年3月・既報)
11. HOPE レポート増刊『『新しい大人文化』創造のヒント『開け ひま』』 (2003年10月・既報)
12. HOPE レポートⅩⅠ 「50代夫婦のパートナー評価」 (2003年12月・既報)
13. HOPE レポートⅩⅡ 「エルダーの食生活調査」 (2004年2月・既報)
14. HOPE レポートⅩⅢ 「エルダーと健康調査」 (2004年4月・既報)
15. HOPE レポートⅩⅣ 「3世代（ジェネレーション）クロス調査」 (2004年7月・既報)
16. HOPE レポートⅩⅤ 「団塊夫婦の定年意識に関する調査」 (2004年9月・既報)
17. HOPE レポートⅩⅥ 「団塊世代のエンタテイメント実態調査」 (2005年4月・既報)
18. HOPE レポートⅩⅦ 「団塊世代のファッション実態調査」 (2005年7月・既報)
19. HOPE レポートⅩⅧ 「エルダーの情報縁とタッチポイント」 (2005年9月・既報)
20. HOPE レポートⅩⅨ 「団塊世代～定年（引退）後のライフスタイル調査」 (2005年10月・既報)
21. HOPE レポートⅩⅩ 「団塊男性～定年後に目指す男のロマン実態調査」 (2006年5月・既報)
22. HOPE レポートⅩⅩⅠ 「HOPE サーベイ 団塊世代 人生60年の棚卸し」 (2006年12月・既報)
23. HOPE レポートⅩⅩⅡ 「団塊世代 60歳以降の人生設計」 (2007年2月・既報)
24. HOPE レポートⅩⅩⅢ 「団塊リタイア調査 退職金の使い方」 (今回)

* このニュースリリースは高齢者も読みやすい11ポイント以上の文字を使用しています。
(11ポイントは、これ以上小さくなると読みにくくなる限度です)